



第69回入学式 校長の言葉

神奈川県立多摩高等学校長 野田 麻由美

本日ここに、神奈川県立多摩高等学校 第69回入学式を迎えることができますことに、心からお礼申し上げます。多数の来賓の皆様にご臨席を賜り、高い席からではありますが厚くお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長した我が子の姿を、さぞ頼もしく感じていらっしゃることでしょう。心からお慶び申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんは多摩高校69期生として、今日、高校生としての日々を歩み始めます。これまでとは違った環境、更に広がりをもつ学習や人間関係など様々な「新しい生活」で新たなことにチャレンジしたいという希望に胸を膨らませていることでしょう。

皆さんには是非、高い目標を立てて欲しいと思います。出来るかどうか自信がない、出来ないかもしれない、そのくらい高い目標を掲げ、チャレンジをして欲しいのです。

皆さんに一つの言葉を紹介します。イタリアルネサンス期の彫刻家ミケランジェロは『最大の危険は目標が高すぎて達成できないことではない。目標が低すぎて簡単に達成してしまうことだ』という言葉を残しています。失敗を恐れて、低く設定した目標を達成したことで満足して、そこにとどまって欲しくない。少し難しいと感じることを目標に立て、目標に届こうと努力する中で、立てた目標に見合った力がつくのです。勿論、成功する事、目標を達成することは素晴らしいことです。しかし、それが目的となって低く設定した目標を達成した成長と、たとえ成功できなかった、目標を達成できなかったとしても、高い目標ゆえの大きな努力を重ねた成長では、皆さん自身の成長の中身が違うのです。

例えば山に登ることを想像してください。誰もが無理なく登れる低い山を目標にした場合と、少し訓練を積まなければならない高い山を目標とした場合です。目標達成という点では低い山を目標にする方が頂上に到達する可能性は高いでしょう。高い山を目標にした場合は頂上には届かず8合目までしか登れないかもしれません。低い山を目指した方が目標を達成しやすいといえます。しかし、高い山に登るために訓練して自分を鍛えた内容、頂上を目指して高い標高まで歩いた経験、そこから見えた景色。低い山から見える景色と高い山から見える景色は違います。また、高い山に挑戦した人はたとえ頂上に届かなくても、自分の経験から頂上まであとどれくらいの差があるのか予測がつかます。自分に足りないものが体力なのか、技術や道具なのか。何が足りなくて何が必要だったか、その差も理解できます。そういうところまで到達した人は、自分自身を理解し、次に山に登るときには、自分に足りなかった部分を埋める準備を整え、チャレンジすることができます。次の成功の確率は高くなるでしょう。

目標が高いほど、大きな壁が立ちちはだかるでしょう。目標を達成できないかもしれません。しかし、失敗を恐れて低い目標で満足するのではなく、高い目標を立てて「やってみる」の精神を持って欲しいと思います。これは、学習や学校行事、部活動や高校卒業後の進路などすべての目標とそれを達成するための行動に共通します。

多摩高校では学習、学校行事、部活動、その他国際交流や科学系の国際コンテスト、探究活動での大会参加など、チャレンジする分野を皆さんに幅広く提供します。どの分野でもいい、複数の分野で欲張ってもいい、高すぎると思うくらいの目標を立ててチャレンジしてください。

『最大の危険は目標が高すぎて達成できないことではない。目標が低すぎて簡単に達成してしまうことだ』この言葉を忘れずに、これからの3年間に寄せる前向きな気持ちを卒業まで持ち続けて欲しいと願います。

令和6年4月5日